



森ボラ 通信

第100号 2010年9月20日発行
NPO法人北海道森林ボランティア協会
URL <http://www.geocities.jp/hokkaidoforest/>
札幌市豊平区平岸1条1丁目9-6 ラルズビル3F
Tel(fax.): (011)816 - 7010
E-mail: hshinrin2002@nifty.com

◆ 森ボラ通信 100号は一里塚

理事長 横山 清

森ボラ通信も100号に達するという。思えばテーマスクラブにおいて、ボランティア活動を行おうということで「森林ボランティア」を立ち上げることとなり、テーマスクラブ代表である私が理事長となった。年寄りの集まりで持続可能かどうか気にしていたが、活動が活発になってNPO法人となり活動は見事に成功しつつあり、内外から大きく注目され期待されるに至った。”言うは易く、行いは難い”ものだが、200号に至るこれから先に向かい、全道に広く組織が広がりボランティア志士がワンサカ集ってくる組織を夢見たいと思う。いかがなものか。

■ トピックス

◆ 宇宙から見た支笏湖CGCの森



パソコンで当協会のホームページを見ている会員は三割程度、残りの六割の方むけに掲載します。

モザイク植栽

この空中写真には私達の夢も現実も写っています。鳥になったつもりでこの支笏湖CGCの森を見てください。画面下にミズナラなど広葉樹の天然林が見えます。ボコボコと見える玉が大きいほど大きな木です。私たちの理想とする巨木の森です。

左側に濃い緑に見える森は人工林のトドマツで、2004年の台風を免れた部分です。

真ん中のモザイク模様18haが私達の植栽活動地で、台風に強い森をつくるために28の班に区分して列方向も樹種も植栽年度も変えて植栽をしています。4メートル幅の植栽列がくっきり見えますが次の12メートルは自然発生期待列です。2008年の最初の調査でマークし母樹として残した台風生き残り保存木370本が点在しているのがわかります。

台風から5年が経ち自然発生の濃いオツパイ山傾斜地2ha（モザイク模様がぼやけた部分）は植栽を補植にとどめ、自然発生した稚樹にマーキングして手鎌による人力刈り出しをして育成しています。炎天下トゲトゲの野いちごとの戦いは7年続きます。これぞ森林ボランティアならではの手法です。（記 酒井）

■ 現場より

◆ 木道と掘っ立て小屋づくり - - - - ニトリ助成

ニトリ北海道応援基金から助成金を頂き札幌市澄川環境林を教育の森にすべく活動をしています。

今年の春から雪の中で除伐をして使える材はソリで集材して皮を剥いて乾燥し木道の杭や掘っ立て小屋の柱に製作中です。

昔からあったポンプ小屋を物置として使っていたがつぶれそうになり危険なため改築しています。ここは学生が来たときのテント小屋代わりのスライド映写の森林教室となります。

ここ澄川環境林の森は代替わりの時であるらしくシラカンバが毎年倒れたり懸かり木になっています。この写真はその倒れ掛かったシラカンバを木道の歩み板と背板の部分は掘っ立て小屋の外壁にしようと移動式製材機で板を作っているところです。

今年の夏は暑くて8人の会員が体調を崩してしまいましたが何とか10月5日にはキノコ汁を食べながら最初の学生森林教室を開くことが出来そうです。（記 酒井）



■ 今月の幹事会

出席者：市山、荻田、酒井、佐野、高野、津金、釣井、西野、矢澤、山中、和田

審議および決議事項

- 1 10月スケジュール 微調整
- 2 支笏湖植樹祭の責任者と作業内容の確認(道新ぶんぶんの森、コンサ百年の森、CGCの森)
- 3 道民森づくりネットワークの集い2010対応→事務局に確認
- 4 リンゴ園進捗状況確認→若干生育的に遅れ気味
- 5 当別植樹方針確認→当協担当区にケヤマハンノキ、ヤチダモを植栽
- 6 リュバン提案地選定→適当な候補地を他に探す

■ おしらせ

◆再度 支笏湖植樹祭への参加お願い

支笏湖における10月の行事は以下のように計画されています。初旬に集中します。当日支援の他に苗木の手当て、植栽事前準備作業を伴います。事前準備を含め、参加を再度お願いします。

開催日	森林名	リーダー	植栽本数	備考
9月30日(木)	オイスカ当別	高野		マーキング
10月1日(金)	道新ぶんぶんの森	西野		マーキング、苗仮植え
10月2日(土)	道新ぶんぶんの森	西野	750	
10月3日(日)	オイスカ当別	高野	1,000	
10月7日(木)泊~8日(金)	CGCの森	酒井	300	支笏湖泊
10月10日(日)	コンサ百年の森	酒井	2,300	

◆ 新入会員：加藤秀雄、久保英樹

■ 投稿

◆ 世界自然遺産 「あきた白神山地」を訪ねて

平成22年5月27日から5月31日(3泊4日)の日程で世界自然遺産「白神山地」を訪れたのでそのルートと知りえた情報をまとめてみました。

3泊4日と言っても、往路の27日と復路の30日は夜行寝台急行車中泊で、あきた白神の八森・岩館県立自然公園に宿泊したのは28日と29日の2泊にすぎない。ましてや、世界自然遺産「白神山地」訪問と言っても青森県と秋田県にまたがる約17,000haに及ぶ広大な山地帯に踏み入った訳でもなく、主峰「白神岳(1232m)」に挑戦した訳でもない。世界遺産条約自然遺産登録地を取巻く世界遺産地域緩衝地域のはずれ、それも秋田側の留山やその周辺の施設、二ツ井から藤里世界遺産センターを経て太良峡・釣瓶落峠(県道317号=地図上赤破線)をドライブ、青森県西目屋村の建設中の津軽ダムに至る峠越し(国道28号)、弘前市「白神自然世界遺産ビジターセンター」を見て回ったに過ぎない。しかし、巨木ブナ、秋田杉、青森ヒバの自然林は十分に堪能できた。

あきた白神体験センターで宿泊が一緒になり、急遽このドライブを設定してくれた、千葉多兵衛氏(青森県沖館地域緑の募金推進協議会理事)と加藤秋雄氏(青森アースレンジャー(青森県地球温暖化防止活動推進員))に心から厚く御礼申上げる次第です。お二人には、二ツ井から青森までの峠越しと秋田杉、青森ヒバの案内と解説、植栽地での現況など、市場も含めた広い情報を頂き感激いたしました。



●.....➡ドライブコースとJR能代駅構内の秋田杉・留山のブナ。



(単位:ha)

白神山地	全体面積	青森県側	秋田県側
世界遺産地域	16,971	12,627	4344
森林生態系保護地域	16,971	12,627	4344
自然環境保全地域	14,043	9,707	4336
自然公園	2,928	2,920	8

施設の紹介]

○ あきた白神体験センター

往路は、JR 青森から JR 奥羽本線東能代乗換え JR 五能線「あきた白神」下車。JR あきた白神駅の目の前にブナ林トレッキングコースあり、それなりの秋田杉の巨木、ブナ林が体感できる。宿泊の、あきた白神体験センターは子供たちの宿泊体験を主体とするため、館内は禁酒・禁煙。ただし、隣接する「漁り火温泉・ハタハタ館」では温泉と地酒を、地産の食材と共に堪能できた。



安い、きれい、うまい。森林関係のこんな宿泊・体験施設がどうして北海道にないだろう。「秋田県人はこう云う予算の獲得が上手い!!」と青森の人が言っていたのが印象深い。北海道のお役人では爪の垢を煎じても出来ない相談のようだ。



○ 環境省白神山地世界遺産センター藤里館(藤里村)

○ 林野庁藤里森林センター(藤里村)

知床世界遺産センターをイメージしていたが、ちょっとがっかり施設。展示物や自然遺産紹介資料も貧弱でお勧めできる施設ではなかった。最後に見学した弘前市白神山地世界遺産ビジターセンターでの展示物・遺産紹介のかずかずは、是非見ていただきたい。



○ 弘前市白神山地世界自然遺産ビジターセンター



○ 奈良の大仏建造に使用したという銅鉾山にまつわるキリシタン迫害の歴史を学び津軽ダム建設工事の見学をした。(記、西野)



■ 活動履歴

活動日	行 事	参加人数	活動内容
9月18日(土)	澄川	12名	製材、物置
9月14日(火)	澄川	10名	製材、物置
9月13日(月)	幹事会	11名	
9月11日(土)	澄川	12名	掛木処理、物置
9月7日(火)	支笏湖	8名	草刈り
9月2日(木)	澄川	12名	物置
8月31日(火)	澄川	4名	物置
8月25日(水)	澄川	9名	物置

リンご園：8/23⑤、27⑧、30⑥、9/1⑤、4④、6③、8⑤、9⑧、